

復興再生利用や県外最終処分に向けた理解醸成活動の状況

令和8年8月27日

中間貯蔵・環境安全事業株式会社(JESCO)
中間貯蔵事業部 コミュニケーション推進課 安納 康栄

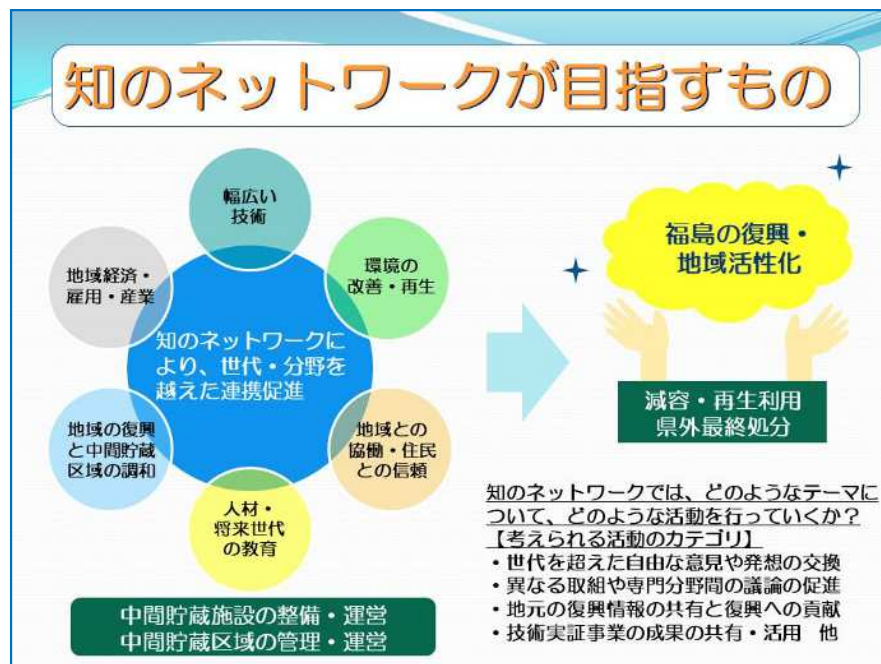
中間貯蔵・環境安全事業株式会社(JESCO)について

商号 : 中間貯蔵・環境安全事業株式会社
英文名称 : Japan Environmental Storage & Safety Corporation (JESCO)
設立 : 2004(平成16)年4月1日
設立根拠法 : 中間貯蔵・環境安全事業株式会社法(平成15年5月16日法律第44号)
主務大臣 : 環境大臣
役員及び従業員 : 491名(2026(令和8)年3月31日現在)

JESCOは、環境省所管の政府全額出資の特殊会社。

中間貯蔵事業をはじめ、PCB廃棄物処理事業で培った知見や技術を活かし、各PCB処理施設の解体撤去を進めるとともに、国の指導・監督及び委託等を受け、環境分野における国の政策実施を担っている。

中間貯蔵事業については、環境省の委託にもとづき中間貯蔵施設の維持管理、県外最終処分や減容・復興再生利用に向けた技術開発、理解醸成の取組等を行っている。



理解醸成の取組については、環境省が実施するもののうち、主として中間貯蔵事業情報センターの運営、中間貯蔵施設及び飯舘村長泥地区再生利用実証事業の見学対応、除去土壌を用いた鉢植えの設置等を実施している。また、【減容化・再生利用と復興を考える知のネットワーク】の運営を行っており、同ネットワークの活動を通じて本企画セッションの開催、ニュースレターの発行等を行っている。

復興再生利用・最終処分に係る理解醸成

- 除去土壌の復興再生利用や最終処分に関する全国民的な理解醸成が必要不可欠。大学生等の若い世代向けの理解醸成（大学等での講義、現地WS等）、現地見学会、メディアとのタイアップによる情報発信、除去土壌を用いた鉢植え・プランターの設置を始めとした各種取組を展開中。
- 今年度は、最終処分・復興再生利用の安全性・必要性等について、特に、若い世代・自治体・メディア等への情報発信を更に進める等により、理解醸成の取組を強化。

若い世代向けの取組

大学等での講義



イベント出展

2025大阪・関西万博でのブース出展



現地見学

中間貯蔵施設や飯館村長泥地区の
実証事業エリアを対象とした
現地見学会を開催

中間貯蔵施設 現地視察



飯館村長泥地区再生利用実証事業
現地視察

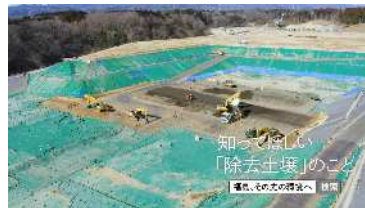


メディアとのタイアップ等による情報発信

インフルエンサー（YouTuber）と
連携した情報発信



YouTubeのCM発出



地方テレビ局と連携した情報発信



除去土壌を用いた鉢植え等の設置

総理大臣官邸



環境大臣室



2026年7月末時点で
26施設・48箇所に設置済み

2025大阪・関西万博での展示



福島や環境再生に関心を持っていただくための広報の実施

全国のテレビ局とのタイアップ

福島復興の様子や、いまだ福島の課題として残っている除去土壌等の福島県外最終処分等について、全国のテレビ局(3月上旬)にて1分番組で放映。



YouTubeCM

県外最終処分や復興再生利用の内容と、これまでの経緯をまとめた30秒×2バージョンのYouTubeCMを実施。

※環境省YouTubeアカウント「福島、その先の環境へ。」でも公開予定

YouTubeチャンネル マイナビHuman「竹山が追う | “復興再生土”から見える福島の未来」

福島の環境再生に向けたこれまでの歩みや課題、
県外最終処分・復興再生利用の必要性・安全性等について、
出演者であるカンニング竹山、松田実桜とともに学んでいく番組。
3月6日(金)から30分弱で放映。



公共交通機関での広告

2026年3月9日(月)より、全国の空港及び隣接駅13箇所や、首都圏では下記電車ビジョンにて、15秒の動画を放映。

- ①JR山手線 まど上ビジョン
- ②JR横須賀線・総武線快速 トレインチャンネル
- ③JR中央線快速 トレインチャンネル
- ④東京メトロ Tokyo Metro Vision(全線)
- ⑤都営地下鉄 ちかッとビジョン(全線)



パネルディスカッション

○福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた理解醸成活動の一環として、除去土壌等の県外最終処分・復興再生利用についてともに考え、理解を深めるためのパネルディスカッションを計7回実施。

(福島開催:R7/8/18 東京開催:R7/9/5、6 宮城開催:R8/3/15 埼玉開催:R8/3/18

秋田開催: R8/ 7 / 16 愛知開催:R8/ 7 / 23)

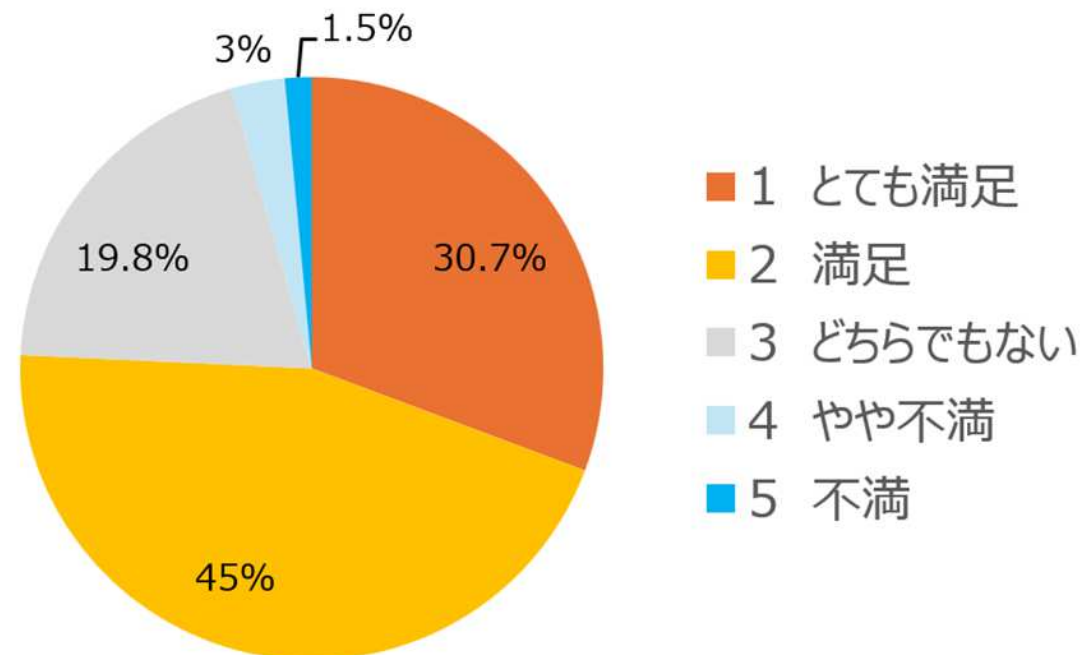
○参加者から申込フォームや付箋で募集した疑問や意見を中心に、パネリスト間の議論のテーマを設定。

<参加者の満足度アンケート（全7回合計）>

<R8/7/16（秋田開催）の様子>



○パネリスト:学識経験者、秋田県出身のタレント、福島的一般の方、環境省



霞が関の中央官庁の花壇等への復興再生利用概要(理解醸成)

- 環境省のウェブページにおいて、総理大臣官邸・霞が関の中央官庁での利用の概要やモニタリングデータについて順次掲載。
- 復興再生利用を行っている庁舎の利用現場やエントランス等では、理解醸成のためのパネルを掲示。
- 環境省、関係省庁のSNS等でも情報を発信。
- 関係大臣等からも、会見における発言や施工箇所の視察などにより情報を発信(5号館は、令和7年11月13日に石原環境大臣、11月14日に辻環境副大臣と友納環境大臣政務官が視察)。
- 来庁者に対する施工箇所の説明を実施。



環境省ウェブページ



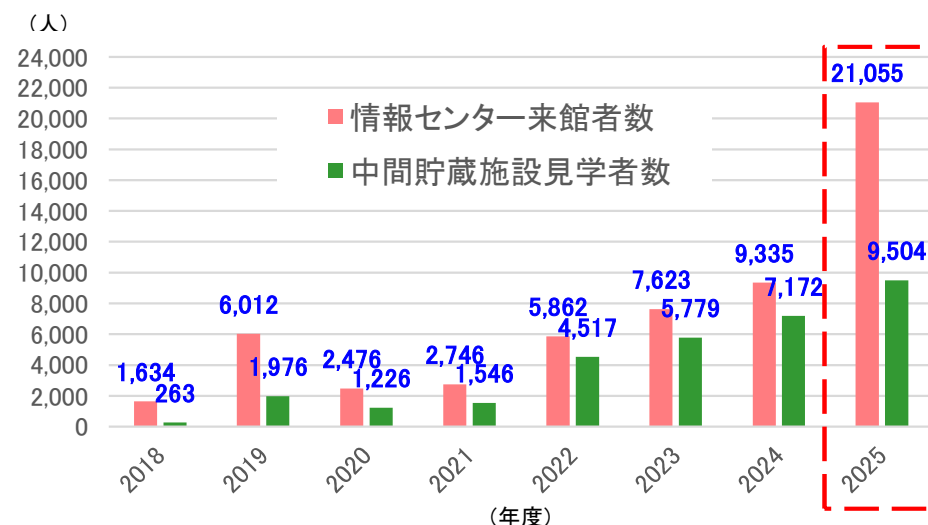
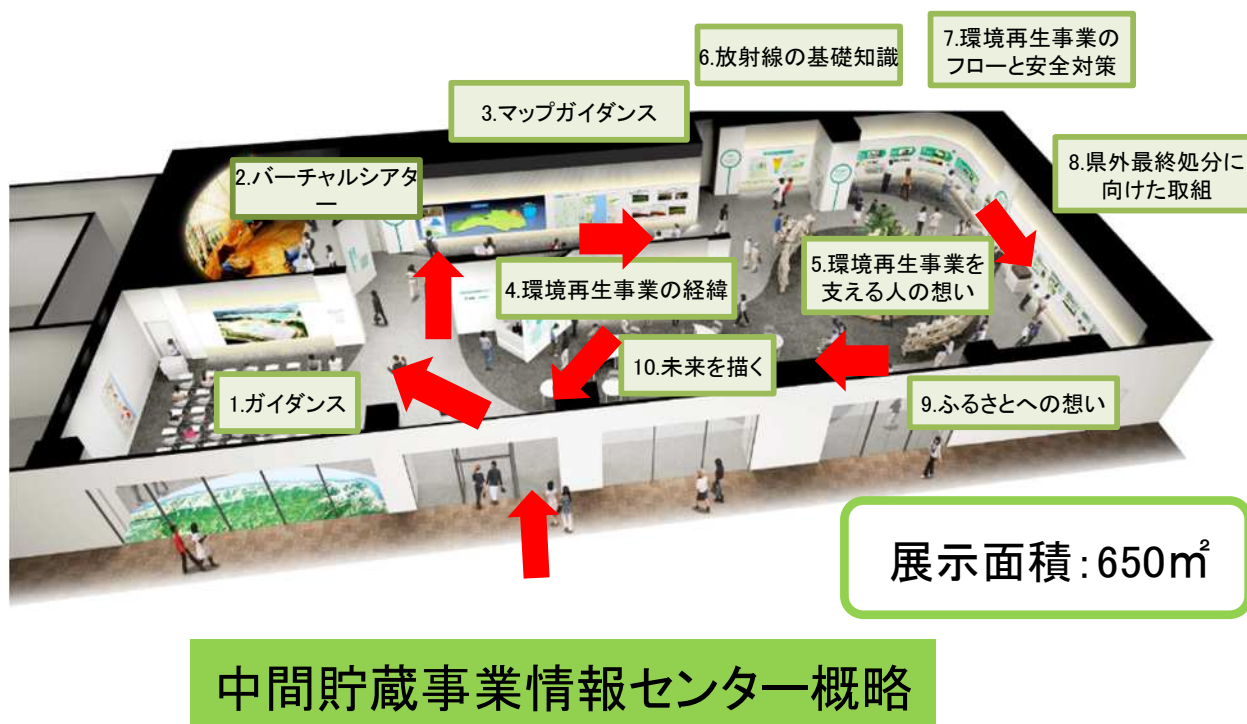
パネル



大臣等による視察

中間貯蔵事業情報センターについて

- 2025年3月15日にグランドオープンした大熊町産業交流施設内に「中間貯蔵事業情報センター」を新たに開設。
- 同センターでは中間貯蔵事業の進捗や規模感を視覚的に伝える展示等により、中間貯蔵事業、除去土壌等の再生利用及び県外最終処分をはじめとする福島復興・環境再生の取組を発信している。
- また、同センターは、中間貯蔵施設の見学会等の発着拠点となり、中間貯蔵施設の建設を受け入れ、大切な土地を提供いただいた大熊町・双葉町の方の思い等についても発信している。



情報センターのオープンにより来館者は大幅に増加 前年度比225.5%

※2025年3月15日以前のデータは中間貯蔵工事情報センターによるもの。

現地見学の実施

- 各種見学会：中間貯蔵施設（毎月）及び長泥地区の環境再生事業について、一般の方向けの見学会（事前申込制）を実施。
- 環境再生ツーリズムの推進：全国の学生等を対象に、長泥地区環境再生事業エリアの視察を含む現地見学・ワークショップを実施。また、福島県が推進する「ホープツーリズム」での中間貯蔵施設の視察受入れや、東京電力福島第一原子力発電所の見学と連携した現地見学を実施。

福島、その先の環境へツアー（2025年度～）

- ・「福島の今と未来を伝えよう」と、全国から学生や若手社会人を募集。復興の現状や福島県が抱える課題を見つめ直し、若い世代の視点から情報を発信することを目的として、2月にツアーを開催した。中間貯蔵施設も見学。約170名参加。



有識者企画ワークショップ（2025年度～）

- ・除去土壌等の復興再生利用・福島県外最終処分等に対する理解醸成等を目的として、飯舘村の長泥地区の再生事業に携わっている万福裕造氏を中心に、全国の大学のネットワークを活用して、学生を集めた現地見学・ワークショップを実施。
- ・これに全国の大学生が参加し中間貯蔵施設や長泥地区の環境再生事業エリアを見学した。全国約25校の学生が参加。



中間貯蔵施設の現地見学①

- 中間貯蔵事業や除去土壌等の県外最終処分に向けた取組等に対する認知度や理解度を高めるため、2018年度から中間貯蔵施設の視察・見学を受け付けている。
- 2026年7月末時点で累計35,375名の方に参加いただいております、視察・見学後にはアンケートを実施している。

中間貯蔵施設見学後のアンケート結果

設問3-2)

復興再生利用をする必要があると思いますか？

■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらともいえない
■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない ■ わからない

全体



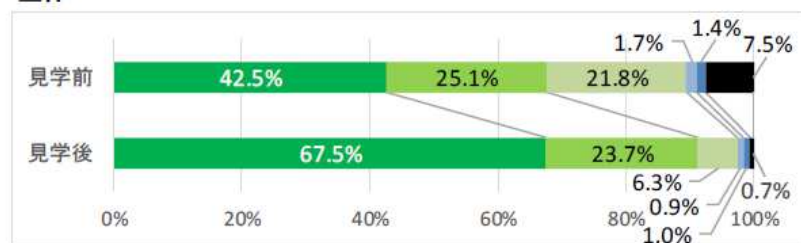
2026年6月の見学者からの回答

設問3-4)

復興再生利用を進めることに賛成・反対ですか？

■ 賛成である ■ どちらかといえば賛成である ■ どちらともいえない
■ どちらかといえば反対である ■ 反対である ■ わからない

全体



2026年6月の見学者からの回答



サンライトおおくま(見晴台)



海渡神社



双葉町 正八幡神社



双葉工区 土壌貯蔵施設

中間貯蔵施設の現地見学②



高市総理による視察
令和7年12月2日
高市総理視察

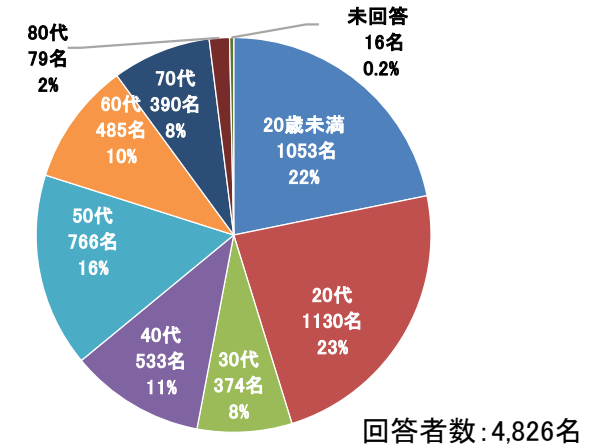


報道機関への公開
令和8年2月4日国内メディア
令和8年3月4日海外メディア

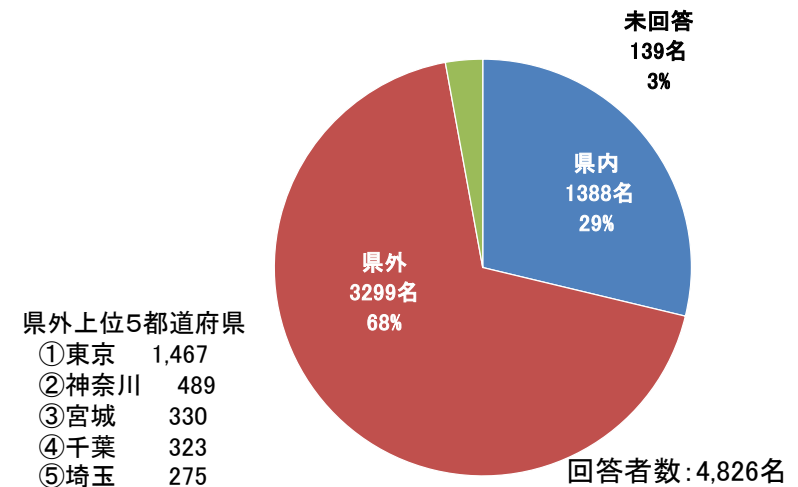


多数の学生ツアー
学生団体は100団体
(令和7年度)
2,413人(全体の29%)

年代別中間貯蔵施設見学者(令和7年度)



中間貯蔵施設見学者のお住まい(令和7年度)

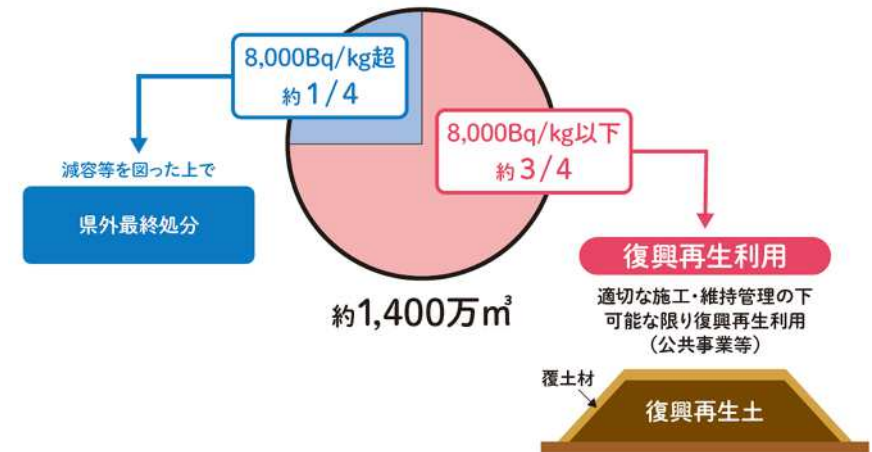


※2025年度の実績

中間貯蔵施設の現地見学③

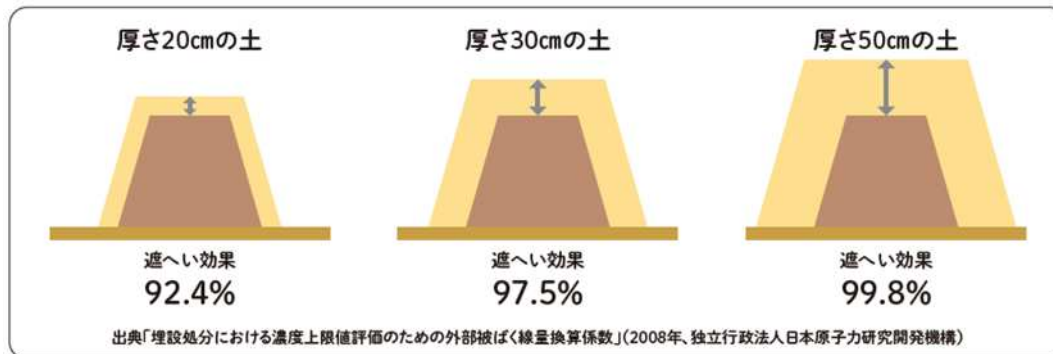


土壌貯蔵施設



見学者に見て・感じてもらい、伝えていること

- ・中間貯蔵施設は、福島県内の除染に伴い発生した放射性物質を含む土壌・廃棄物及び福島県内に保管されている10万ベクレル/kgを超える焼却灰等を最終処分するまでの間、適切に管理する施設であること。
- ・大量の除去土壌が適切に保管されている土壌貯蔵施設上での空間線量率測定体験。
- ・法で定める復興再生利用に用いる除去土壌の放射能濃度は8,000Bq/kg以下であること。
- ・復興再生利用に当たっては、復興再生土が飛散・流出をしないよう覆土等を行うこと、覆土は放射線の遮へい効果も有すること。



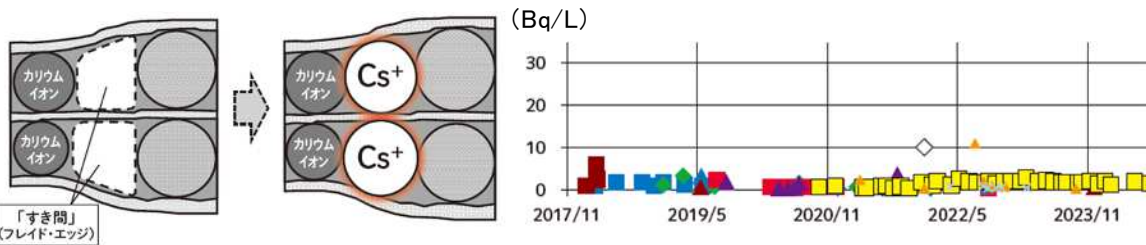
中間貯蔵施設の現地見学④



道路盛土実証施設

見学者に見て・感じてもらい、伝えていること

- ・福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた復興再生利用の推進のため、多くの試験研究・実証事業を行ってきたこと。
- ・放射性セシウム特性を踏まえた再生利用を行い、県外最終処分実現を目指していること。
- ・2025年7月から総理大臣官邸で、9月から中央官庁の花壇等で復興再生利用を行い、理解醸成を進めていること。
- ・今後も、各府省庁の庁舎等での復興再生利用を行いながら、中間貯蔵施設見学の強化及び花壇等利用事例を活用した理解醸成を進めていくこと。



2025年3月

除去土壌の埋立処分・復興再生利用の基準等を定めた環境省令等を公布。あわせて復興再生利用に係るガイドラインを公表。

2025年5月

福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた再生利用等の推進に関する基本方針を公表。

2025年8月

福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた復興再生利用等の推進に関するロードマップを公表。

中間貯蔵施設の現地見学⑤



東京電力福島第一原子力発電所、
中間貯蔵施設、避難を余儀なくされた施設



地元住民の皆様が大切にされている神社



津波被害を受けた施設

見学者に見て・感じてもらい、伝えていること

- ・2011年3月11日の東日本大震災により被災した施設、東京電力福島第一原子力発電所の事故、廃炉作業を見る。
- ・複合災害に見舞われ、避難を余儀なくされ、そのまま戻れなくなった施設の現状を見る。
- ・中間貯蔵施設整備のため、たいへん重い決断のもと自らの土地を提供した住民の想いを知る。
- ・なぜ、復興再生利用が進められ、2045年3月までに福島県外で最終処分することが法律で定められ、約束となっているのか考える。

飯舘村長泥地区環境再生事業の広報拠点エリア

広報拠点エリア（ながどろひろば、駐車場、ビニールハウス）



▲動画放映ゾーン



▲パネル展示



▲再生資材化施設模型



ビニールハウス（2024.4.1運用開始）

栽培している花きの種類：

トルコギキョウ、カンパニュラ、カスミソウ、マリーゴールド、キンギョソウ、アルストロメリア、スターチス、ラナンキュラス、カーネーション 等

【施設情報】

開館時間	10:00～16:00
休館日	毎週水曜日・年末年始
入館料	無料
住所	〒960-1723 福島県相馬郡飯舘村長泥字長泥815-1

【ながどろひろば来訪者数】

期間	人数
2025年4月25日～ 2026年6月30日	約4,000名 ※一般見学会、視察等含む



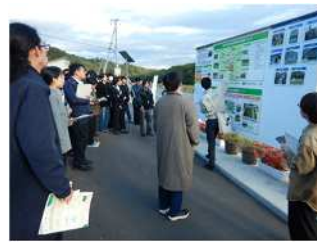
長泥地区の現地見学会について

- 長泥地区環境再生事業に対する認知度や理解度を高めるため、視察・見学対応を2021年度から実施している。
- 2026年6月末時点で累計7,000名以上の方を案内した。

※環境省・JESCO共同実施

一般見学会

・2025年度の長泥地区環境再生事業の一般の方向け現地見学会（一般見学会）は10回開催し、119名の参加があった。
また、2021年～2025年度までに合計53回開催し、のべ約700名の参加があった。今年度も継続開催。



一般の方向けの現地見学会の様子（花き栽培ビニールハウス、看板前、放射線測定体験）

視察等（視察、ツアー、見学、取材）

・2025年度の視察等については、約2,000名に対応した。
また、2021年～2025年度までにのべ約6,600名に対応した。

＜主な視察者＞※2025年度

行政機関：経済産業省・復興庁・環境省（大臣等）、衆議院環境委員会、各府省庁担当者、福島県、飯舘村 等
小中高校生：飯舘村立いいたて希望の里学園、栃木県立大田原高校、大田原女子高校 等
大学生：福島大学、島根大学、上智大学、関西学院大学、筑波大学 等
その他：カーカム会議、山村振興ブロック会議 等



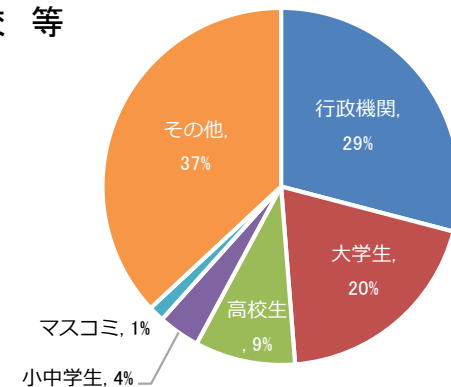
今井復興大臣政務官視察



衆議院環境委員会視察



福島大学生見学



2025年度 見学、ツアー、視察者の内訳について

中間貯蔵施設見学後の意見①



Q. あなたの住む町で、復興再生土の利用が実施されたらどう思う。

今日、実際にお話を聞いて放射線量によって安全に土壌を再利用できるのだと知り、福島復興のためにも賛成したいという考えに変わりました。正しい知識を伝えることで除去土壌に対する理解が深まったらいいなと思います。

中間貯蔵施設にある除去土壌は福島県だけではなく、日本で起きた最大の公害であるため、福島県だけに大きな負担を負わせるわけにはいけないと思っています。福島復興は日本の復興と考えれば、私の住む町で土壌が使われるのはWelcomeです。

除去土壌のことをよく知らないことで「何となく危険」と思い込む方が多いと思います。でも安全だと分かれば、何も心配ありません。おおいに利活用していただくべきだと思います。

私は賛成！ワークやセミナーを通して、“他人事”ではなく“自分事”になった。理解醸成はそのために必要なことだと思う。

見学前は安全性が不安で、絶対反対に近い意見でしたが、見学を経て、以前よりも抵抗感がなくなりました。

正しい知識を持つ人が増えてほしい。原発でつくっていた電力は、福島だけでなく、東京でも使われていた。これをより伝えて、無関心な人を減らしていくべき。

中間貯蔵施設見学後の意見②

Q. あなたの住む町で、復興再生土の利用が実施されたらどう思う。



放射能は閾値はないので医療的な面も含めて身の周りにはないことを望みます。放射能を含んだ土砂はそのまま保管してほしい。

大切な事であるというのはわかっているけれど、どうしても少なからず不安はある。

食べ物関連は少し不安を感じるが、道路などに活用することに抵抗はない。もっと身近なものとして伝えていけたらいいと思う。

復興に貢献できるので嬉しくはあるが、風評被害によって観光客が減ってしまわないか不安。

復興再生利用は複雑なところもあり、もし自分の住んでいるところだと仮定すれば、なかなか受け入れ難くもある。

再生利用が進むことは素晴らしいと思う反面で自分の身近でとなると100%の不安がなくなるかと言ったら正直なところそうではないかなと。その分、もっと放射線への理解を深めたいと思いました。

個人の意見としては良いと思うが、そこに住む多くの人の意見も聞くべきだと感じた。